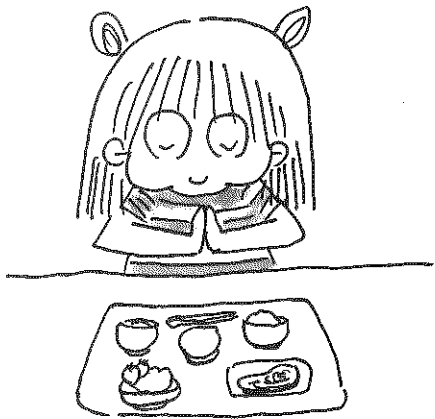


某・精神科病棟

お登ごはんです。

キタウもおいしく
いただきますーす!!



病院食はうす味で
もの足りないけど



?

703
703
703
703



Aちゃん...もうずっと
何年も入院してる子だ。



お皿も、ふたの裏も
ぜんぶなめてる。



気になるから見ちゃっ、うん、
でもずっと見てたら
こっちの食欲が無くなるなま。

でもそれよりなにより

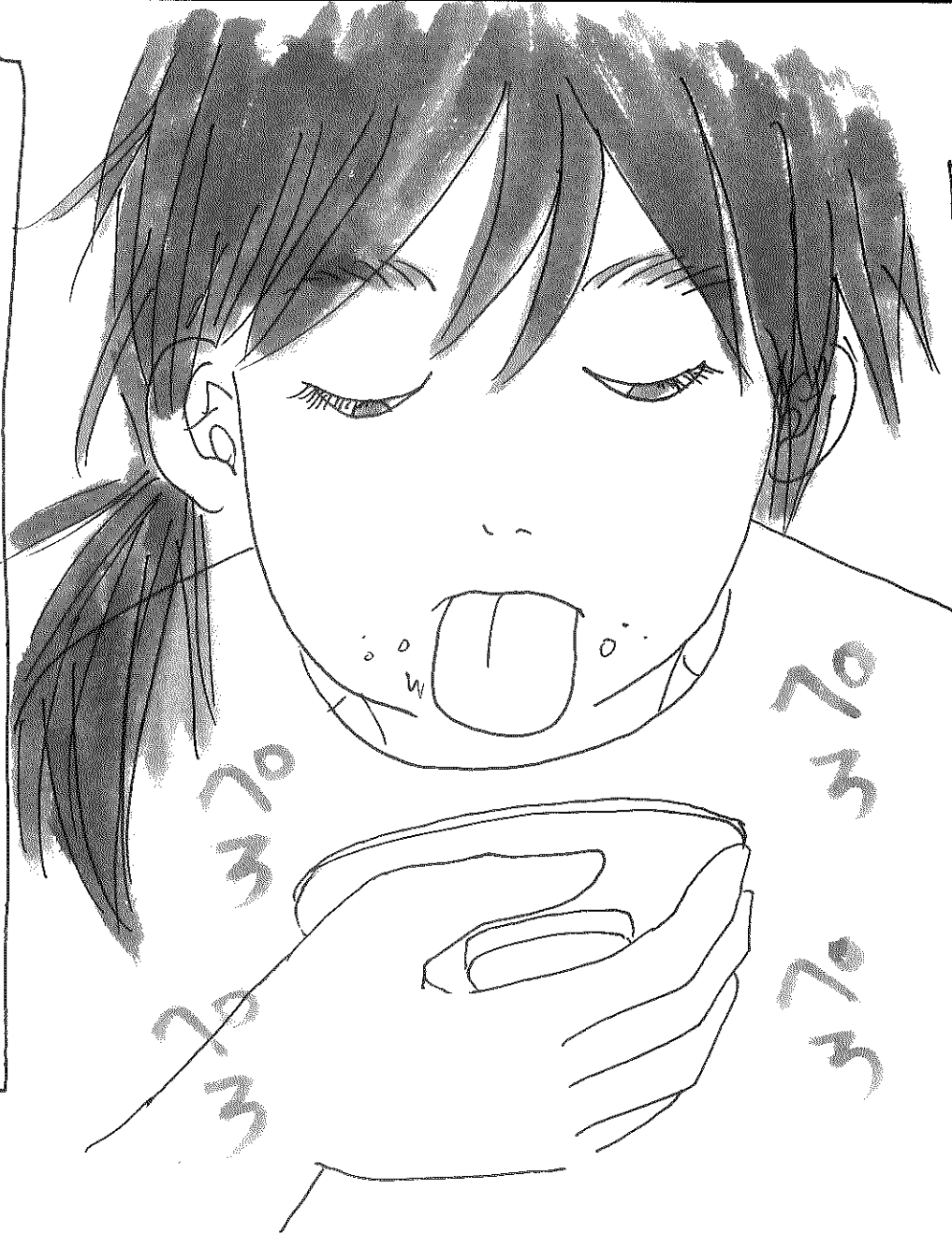


なんで誰も
なにも言わないんだろう？



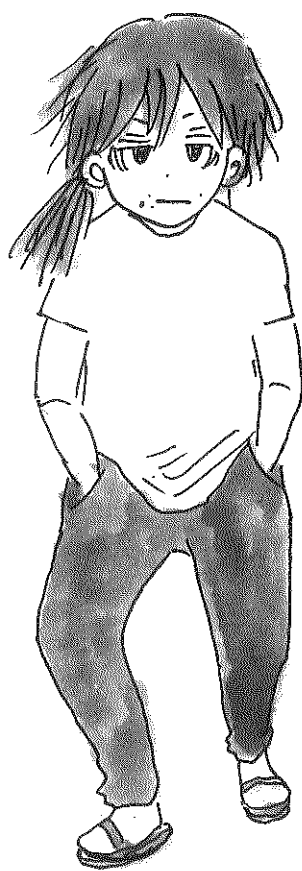
寂しいけど...

看護師さんたちも忙しいだろうし
多分...言ってもやめないから
もう何も言わないんだろうなあ。



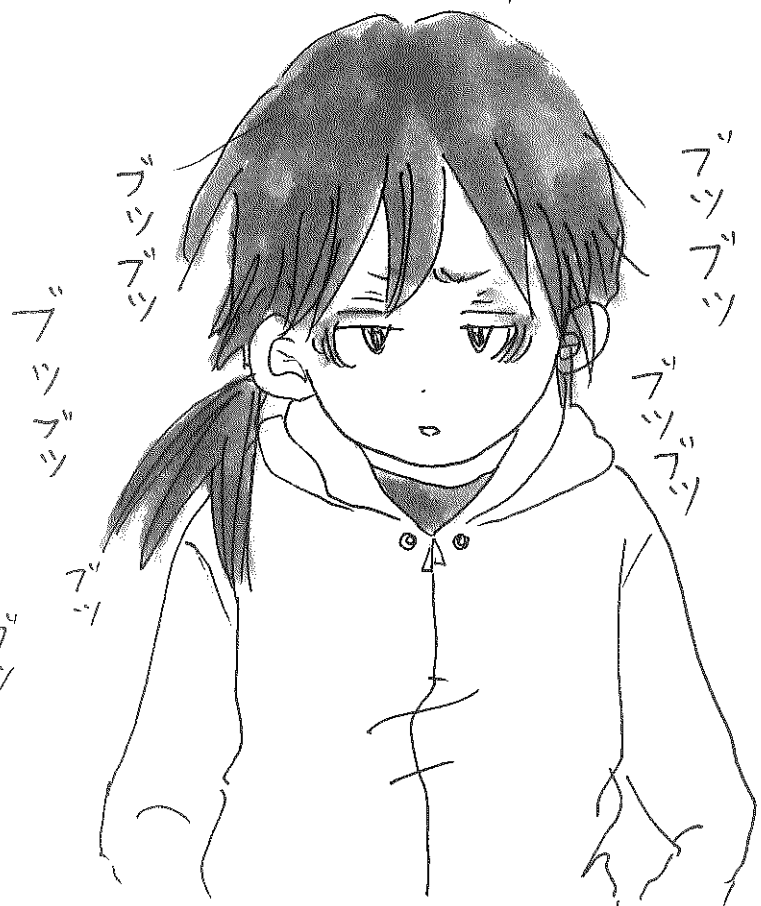
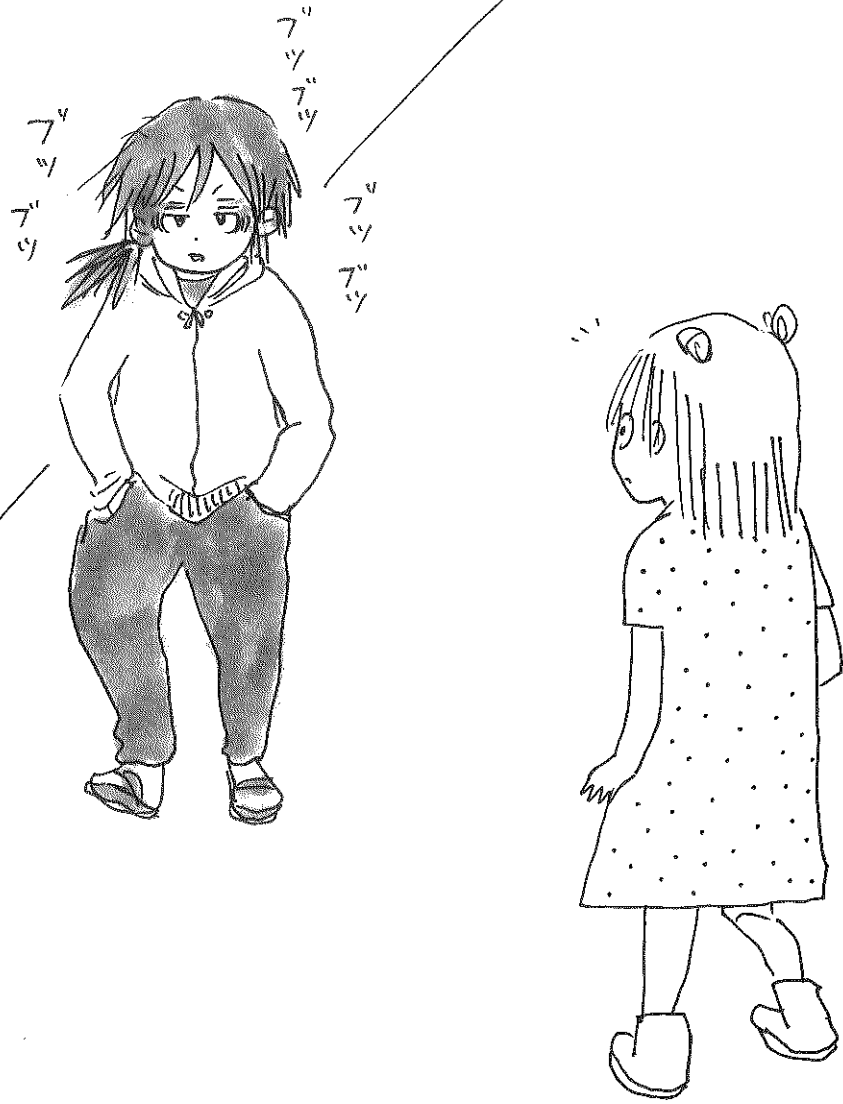
でもなんかそれってどうなんだろう？

まるで大みたいじゃないか。
なんだか惨めだったらしいじゃないか。
Aちゃんはこれから先もこの閉鎖された
この精神科にいらんたろうか。



Aちゃんの未来は
社会復帰は、もう、みんなから
あきらめられてるんだらうか？

次の日、そんな疑問を抱えたまま
わたしはある事に気が付いた。

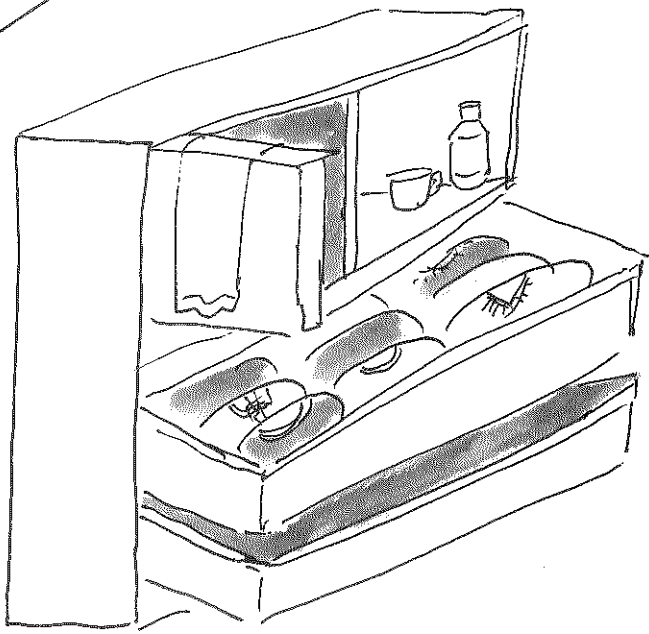


わたしのに似てる…てか、
同じやっに見えるか…。



あのパーカー…

子
知
うなんてよくないけど
一応………一応ね。



念のため………!!!

お気に入りのあのパーカー!!

なんで? なんで?

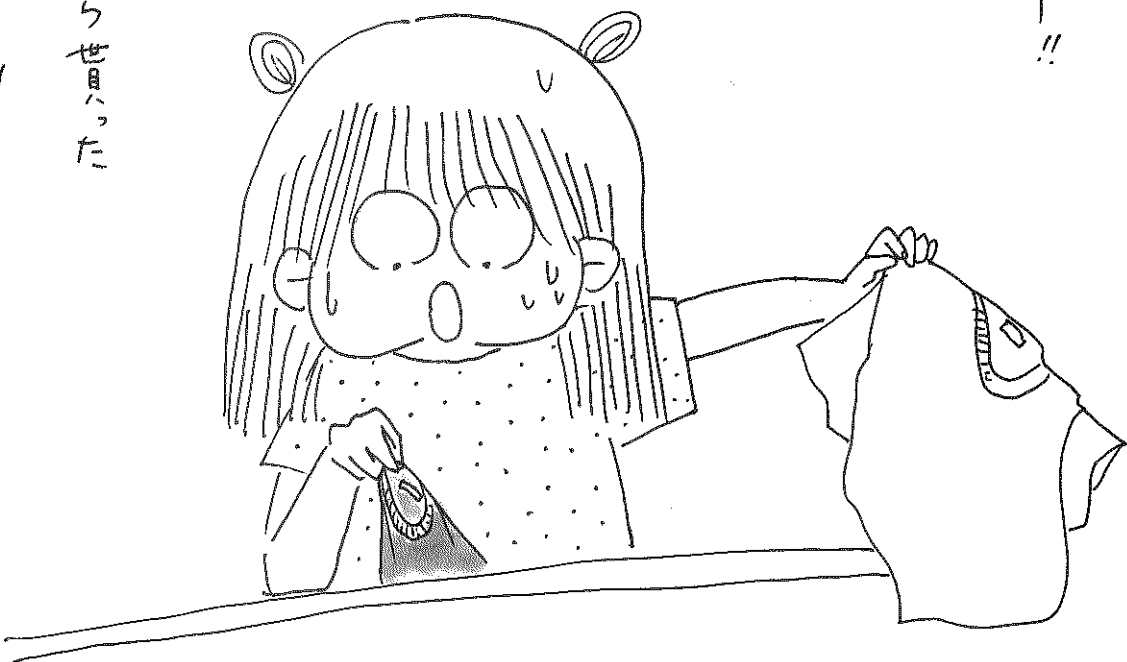
え、なんで!? え!?

無い……しかも!

シャンプーと友達からせびった

大切なピアスも無い!!!

ズボンも無い!!!



パーカー

シャンプー

ヘアス

ズボン



計4つですねハイ。

無くなつてますねハイ。

どうせありませんかハイ。

看護師さんに言うべきか。

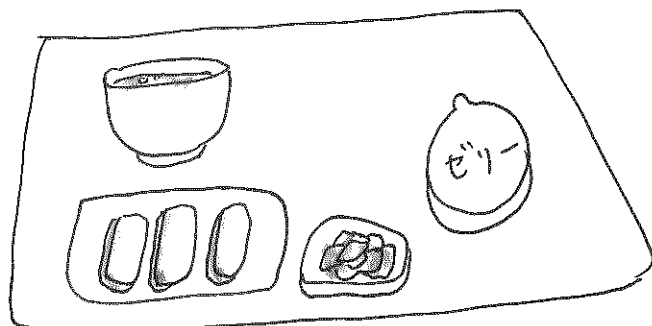
でもAちゃんが盗んだとか現実見たくないし。

思いたくない疑いたくないなあー……



いや、言葉よそれ。

なごりばなごりだよ別に。





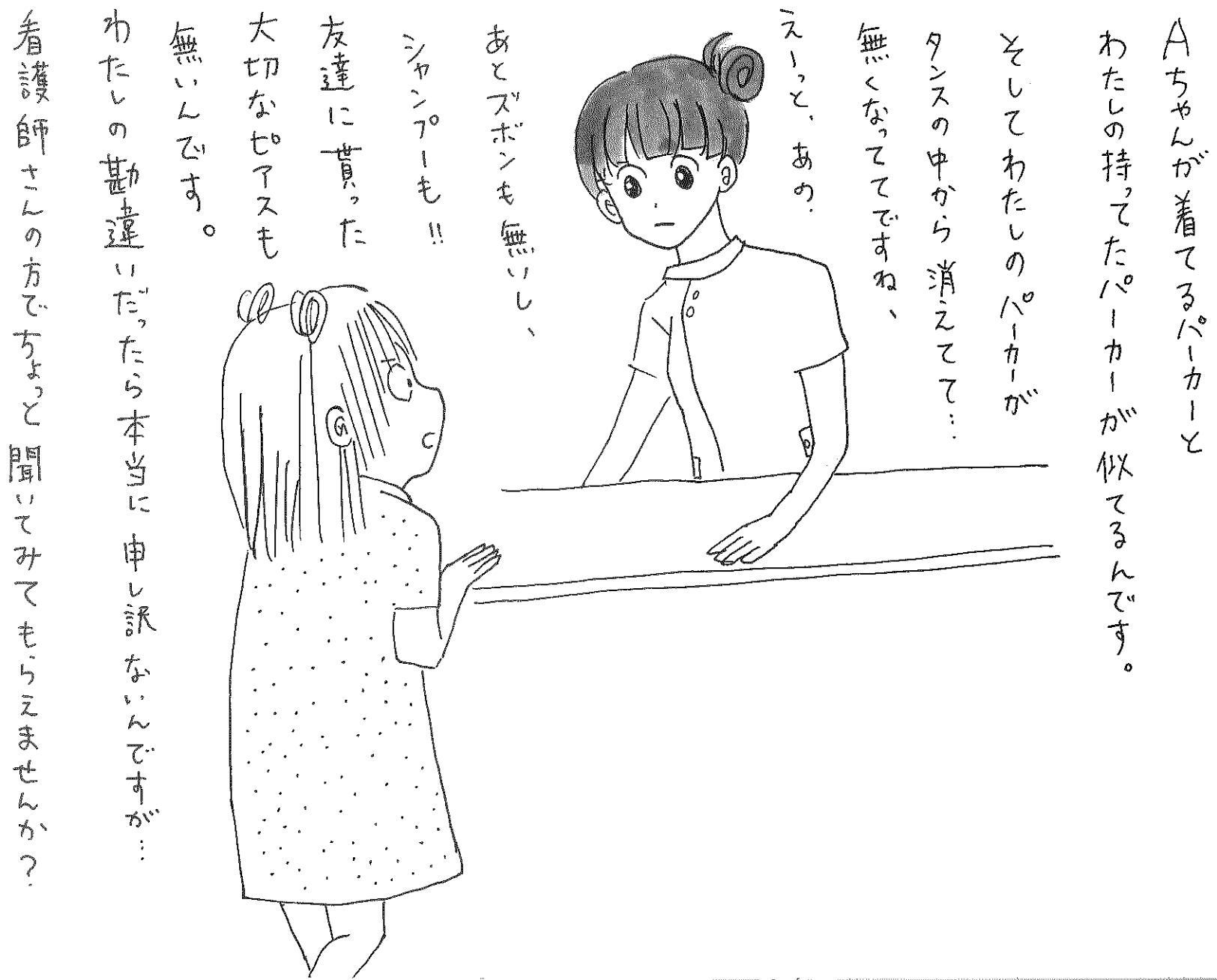
細柳屋十右衛門

AAA...

了解

うん。

だよ。



Aちゃんが着てるパーカーと

わたしの持ってたパーカーが似てるんです。

そしてわたしのパーカーが

ダンスの中から消えてて...

無くなっててですね、

えーと、あの、

あとズボンも無いし、

シャンプーも!!

友達に貰った

大切なピアスも

無いんです。

わたしの勘違いだったら本当に申し訳ないんですが...

看護師さんの方でちょっと聞いてみてもらえませんか？

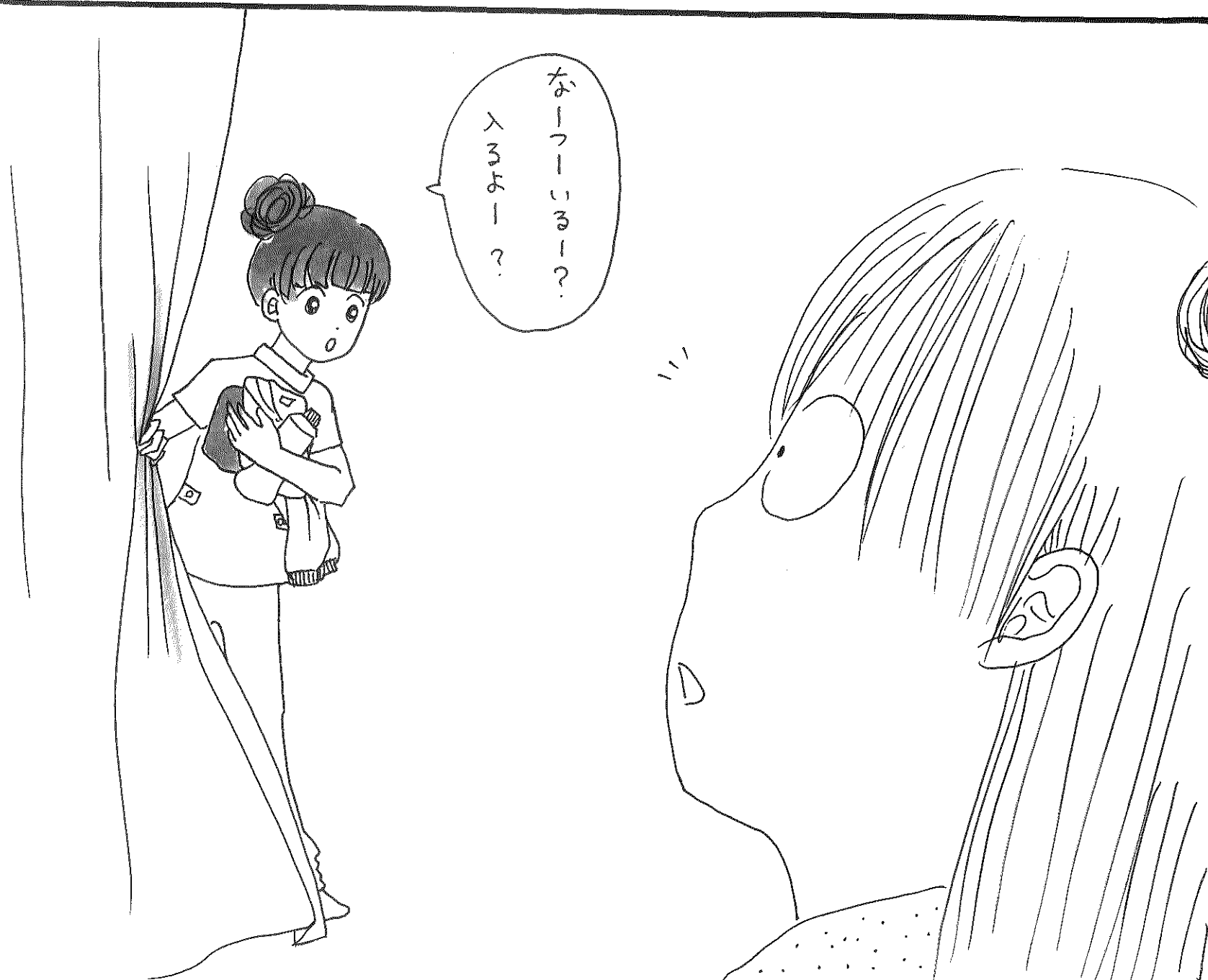
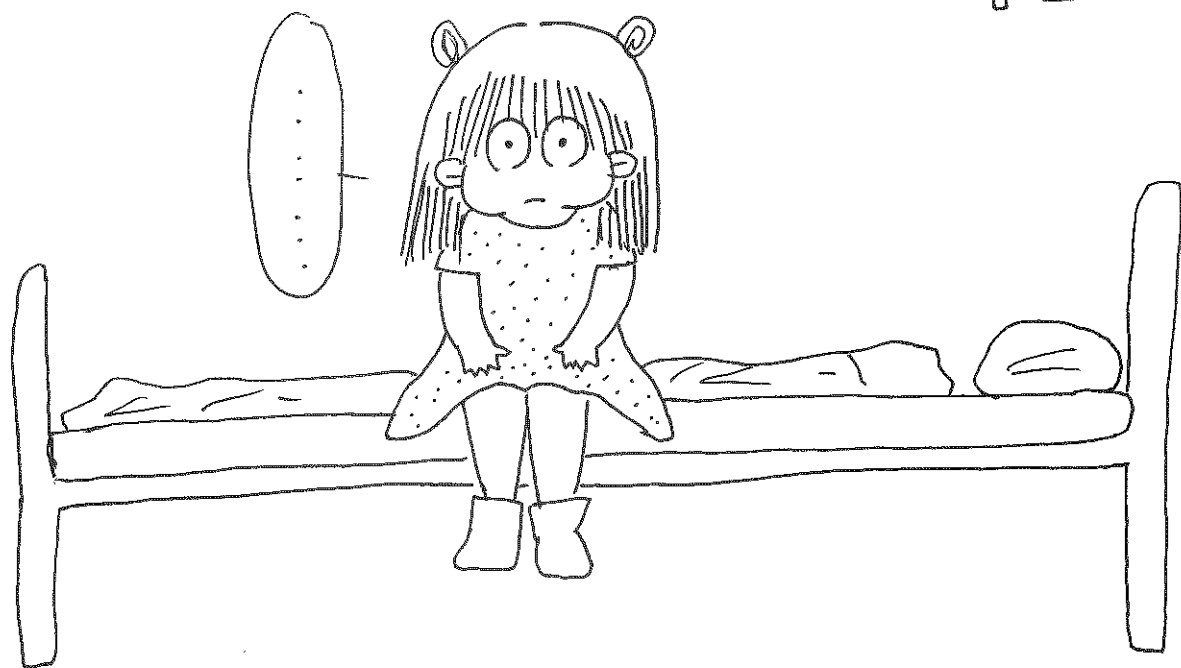


Aちゃん ちょっとステーション
入っせー。



おとなしく 部屋で待つ.....

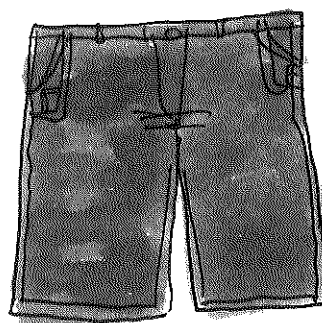
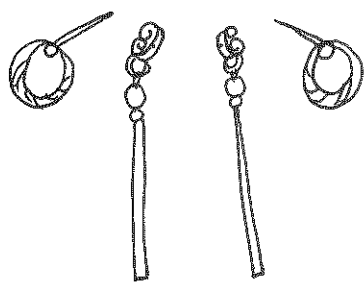
こと 15分.....



パーカー



ピアス



ズボン



シャンプー

この4つ、なーつーのかな？
戻ってきたよ。良かったね!!

あ、ありがとう、やっぱり……
……Aちゃんが持ってた……？



あ……でも。

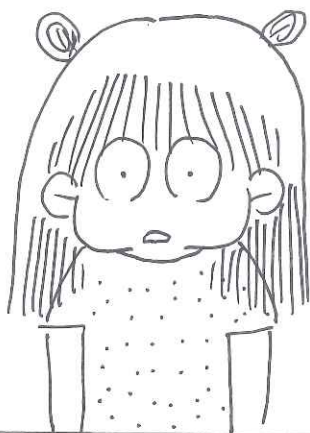
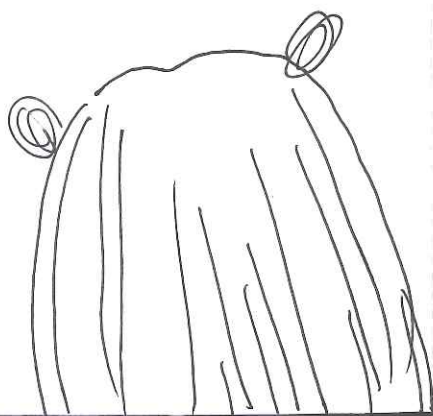
うん……ごめんね、本音に。
「借りてるものあったら返さうね。」って言って
そしたら、出してきたよ。

謝りには来ないんだ。



また何かあったら
すぐ教えてね！

じゃ、行くね。



やっぱりAちゃんはもう社会に出られないのか。



頭の中に、お皿をなめる
Aちゃんの姿が思い浮かんできて
なんだか無性に涙が出た。

Aちゃんは「謝る権利」を
与えられなかった。

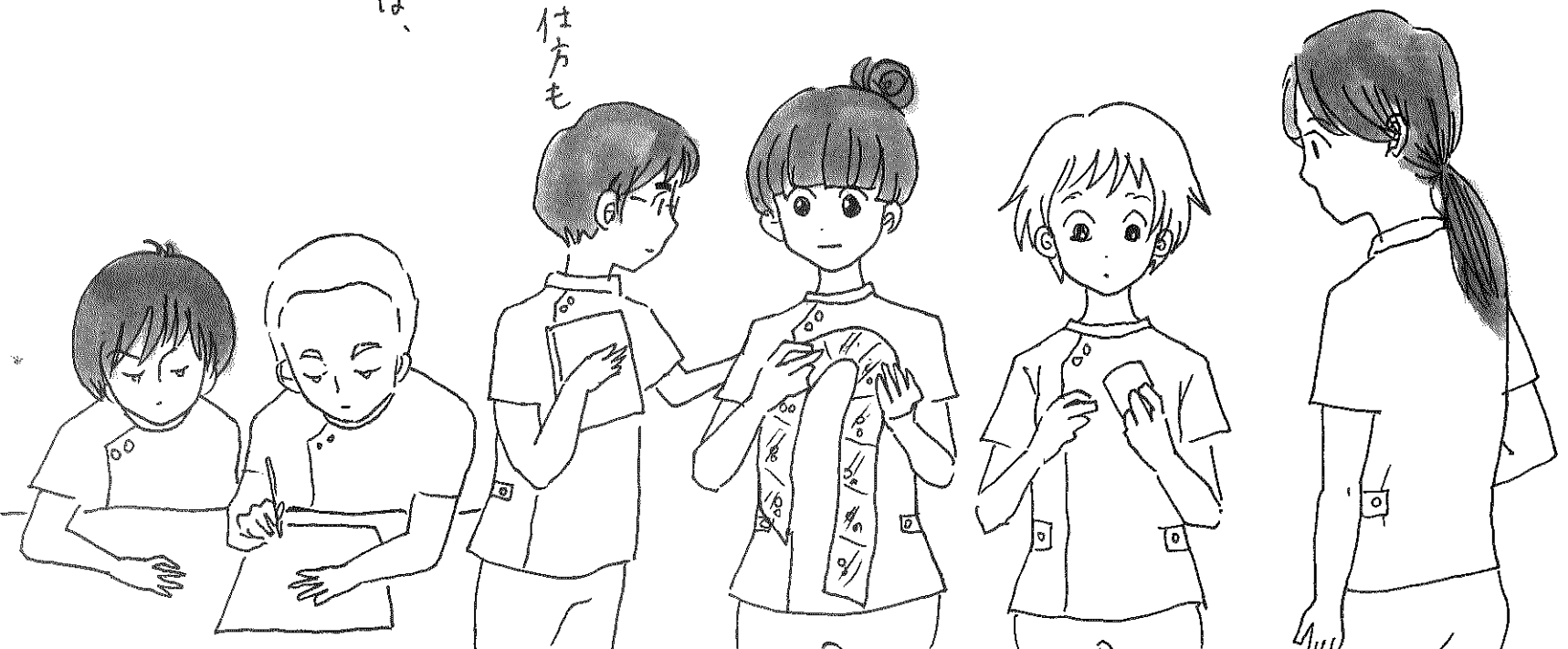
そして、それと同時に
わたしも「謝られる権利」を
与えられなかった。

もちろん看護師さん達には
看護師さん達なりのやり方が
あると思う、想いや考えも。
性格だってそれぞれ違う。

やる事だって悪気があっての
事じゃないと思う。

患者さんは人それぞれ病状が
違うし、それに伴って対応の仕方も
変わってくると思う。

みんなそれぞれ違う、わたしは、
それは理解してるつもりだ。



お皿をなめて叱られる権利。

Aちゃんが成長するチャンス。

悪い事したら謝るという常識。

その常識を覚える機会を与えられなかったAちゃん。

「悪い事をしたら謝る」そんな当たり前前権利を

ただ精神病院の患者であるという理由で取り上げられた。

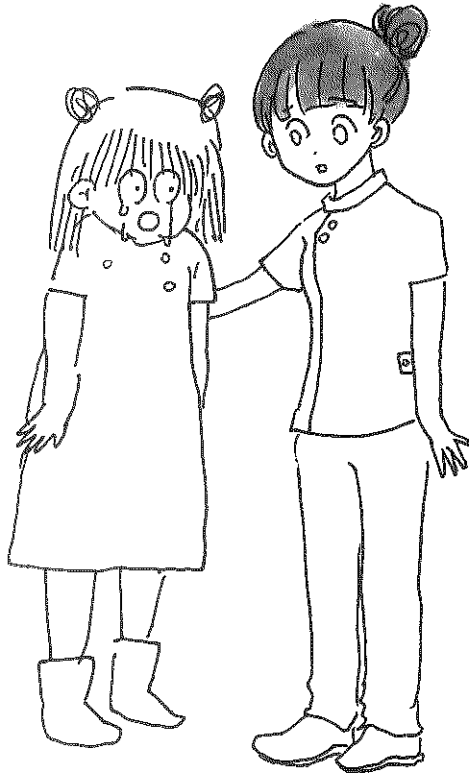
それは人としての尊厳を与えてもらえないのと

同じではないだろうか。

人の権利って、何だ？

後日、わたしは正直に
看護師さんに聞いた。
Aちゃんの話をした。

悔しくて泣いて
泣いた話をした。



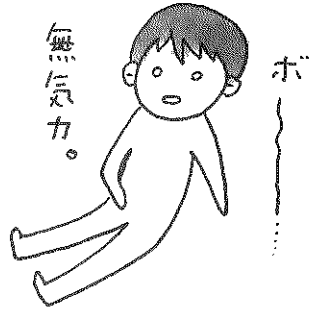
そこでわたしは、その時の看護師さんの
考えや、気持ちを聞く事ができた。

先にも書いた通り、
患者さんひとりひとり、それぞれ
抱えている症状が違う。



さらに付け加えると、患者さんによっては、その日、その時間によって、症状が変わったりする人もいます。

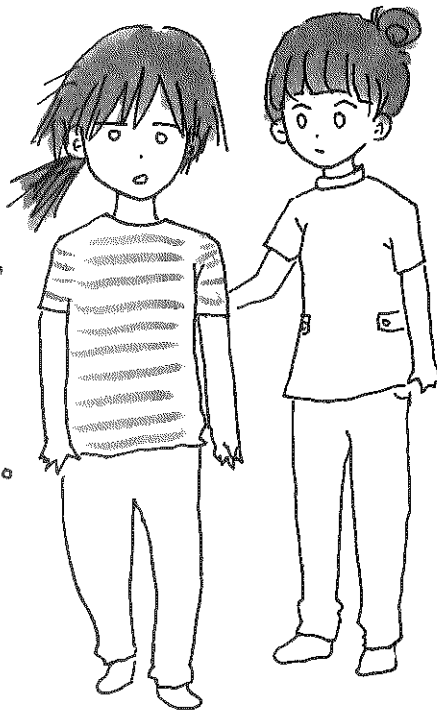
午前



午後



話を戻そう。



以前、同じようなトラブルがあった時、看護師さんはAちゃんに、ちゃんと謝らせたという。

しかしその後、Aちゃんは、
幻聴が音くなり、「独語」で、
被害者の子の如く、
ブツブツ呟くようになった。

そして被害者の子と更なる
トラブルになったようだ。

ブツ
ブツ
ブツ
ブツ
ブツ
ブツ
ブツ
ブツ
ブツ
ブツ

だからこの看護師さんは、Aちゃんを守る為、
病状を悪化させない為、

そしてその後のトラブルに発展しない様、
あたしが苦しまない様、今回は、
「借りたものはちゃんと返そうね」という形をとって
行動してくれたらしい。

そこには、看護師さんの現場での苦悩やジレンマ。
考えや工夫があったのです。

Aちゃんがこの先、何年、
この病院に居るのかは、
誰にも分からない。

それでもわたしは信じた。

Aちゃんにもわたしにも、
それぞれの「人権」や「幸せ」が、
未来には準備されていると。



おしまい。

あ と が き

本当に見るべきところは、考えるところは、
トラブルのその先にあるように思う。なぜAちゃんはこの様な行動をとるのか。
そしてわたしがした、嫌な思い、ぜひAちゃんに知ってほしい。
知るべき「権利」があると思うから。
だからわたしは考え続けて、発信する。なので。

この物語をAちゃんに贈る。

それと同時に、これを読んだ全ての人へ、いま一度、問いかけたい。
あきらめずトラブルのその先へ。答えがあるかは分からない。でも。
忘れられた権利を抱きしめに行きませんか。と。

最後まで読んで下さってありがとうございました。



RI. 10.22

なかむら なつみ